

今出三十三観音を巡るⅢ

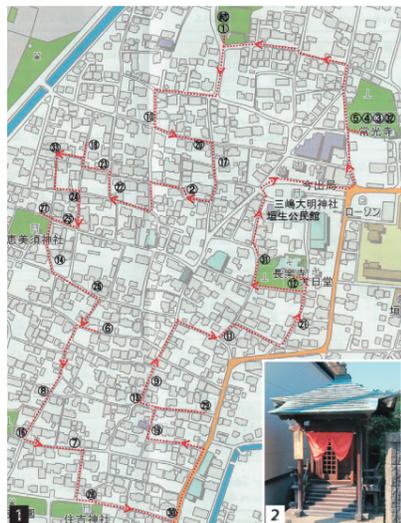
このシリーズの最初に述べたように、今出三十三観音は、西国三十三観音を模して江戸時代の享保の大飢饉の餓死者の霊を慰めるため祭られたようだ。

私たちは、案内図に従って三嶋大明神社前の村上齋月郎横から北へ進み、常光寺の3・4・5番から巡り始めた。常光寺を後に北へ進むと1番の観音堂がある。西国三十三観音霊場の1番が和歌山県の那智になったのは、伊勢参りを済ませ西国巡りをするのに道順が良かったからのようだ。ちょうどお参りするご婦人と出会った。二日ごとにお参りしているとのこと。

観音堂に決まった様式はなく、祭る人の好みで造られていて、中にはステンレス製の御堂や車庫の横など屋敷に取り込むように造られているものも多くあり、守る人の心意気が伝わってくる。

垣生公民館の西村館長のお話では「観音堂を地区で当番を決めて管理しているわけではなく、誰もたなくお花やお菓子が供えられ、人とのつながりで守られてきている」とのこと。1月に公民館行事で子どもたちと巡る「新春ウオーキング」が30年余り前から続いていることや、

観音堂のしゃれた寺名表示板を地元の伊予一刀彫の南雲さんが制作するなど、観音様に目をかけた人々によって守り継がれてきたものようだ。これが江戸時代から続く慣習だと思えば、今出三十三観音と地域の人々のつながりとが一段と大きく感じられる歴史散歩であった。(麻生記)



【参考文献】
 山野芳幸「松山垣生界隈はええとこそなもし」山野芳幸 2008年、佐藤久光「遍路と巡礼の社会学」人文書院 2004年
 ① 今出西国三十三観音霊場順路マップ(垣生地区まちづくり協議会制作、抜粋編集) 地区内にコンパクトに配置されていて、2時間もあればゆっくり巡ることができる。地図は垣生公民館でもらえる

② 三十三番霊場谷汲山華厳寺
 狭い路地の突き当たり建てられた総ひのき造り銅板ぶきの立派な観音堂。西国霊場巡りでは岐阜県の山中にある結願の寺「谷くみさん」として親しまれ、結願して東国へ旅立つ寺でもある

3月の歴史散歩は実施しません。

松前史談会(麻生) ☎ 090-4472-8136

community learning center
公民館
 だより

【開館時間】 9時～22時 【休館日】 12月28日～1月4日
 ◆東公民館 神崎 210 ☎ 984-1159 FAX 984-1457
 ◆西公民館 北黒田 966-2 ☎ 984-5313 FAX 984-5313
 ◆北公民館 昌農内 456-1 ☎ 984-7529 FAX 984-9398

西公民館

毎月順番に活動内容をお届け!

放課後子ども教室



④大きなシャボン玉作りたいな
 ⑤高く飛んでいけ～



12月16日、放課後子ども教室でシャボン玉遊びをしました。

まずは、シャボン玉を飛ばすための道具作り。子どもたちは、ワイヤーハンガーにモールを巻いたり、割り箸にモールを付けたりして、思い思いの道具を完成させました。

完成した道具を持ったら、公民館の屋上に集合。班に分かれて、シャボン玉液を作った後は、早速シャボン玉で遊びました。中には、長い棒にロープを付けた道具で、大きなシャボン玉を作る子どもたちも。さまざまな大きさのシャボン玉ができて、みんな大喜びでした。

力を合わせて作ったたくさんのシャボン玉は、夕日に反射してとてもきれいでした。

Let's Enjoy Books
ふるさと ライブラリー
 ◆開館時間 9時30分～19時
 ◆問い合わせ ☎ 985-4140 FAX 985-1386
<https://www.i-masaki.jp/library/>
 ◆3月の休館 31日(金)
 おはなし会
 18日(土)11時～
 文化センター2階
 ふるさと学習室

◆新着本 紹介

毎週新しい本を入荷し、随時、新着本コーナーに展示しています。貸し出し状況、予約状況はお問い合わせください。

▶固結び
 山本一力・著
 文藝春秋



はつまま
 初午の真夜中、喜八郎たちのすぐそばで、男女が川に飛び込んだ。二人が奉公先の賭場で恋仲になった揚げ句に心中を図ったと知った喜八郎は、賭場の貸元と直談判に及ぶが…

▶猫にならって
 佐川光晴・著
 実業之日本社



病気で伏せている小学生、芳子の部屋で子猫が4匹生まれた。芳子は小さな子猫チビのことが気掛かりで…。野良猫との出会いと生命を巡り、厳しくも温かく猫と人を描く8つの短編集

▶開墾地
 グレゴリー・ケズナジャット
 著 / 講談社



留学先の日本からサウスカロライナに帰郷したラッセルは、五感を通して、遠くイランからこの地に根を下ろした父の来し方に思いをはせ…。繊細な感性で描く新たな越境文学。第168回芥川賞候補作

▶60歳からの「忘れる力」
 鎌田實・著
 幻冬舎



人生の後半戦が始まる60代。面倒なことは捨てて、本当に大切なものを選ぶという作業が必要になるといわれている。「忘れる」ことで脳と心の新陳代謝を促し、残りの人生を充実させるためのヒントが詰まった一冊

▶90歳、老いてますます日々新たな
 樋口恵子、岸本葉子・著
 柏書房



90歳の樋口恵子が、娘世代の岸本葉子を相手に、人生100年時代の豪快な生き方を語り尽くす。90歳になっても発見や愉快地に生きる秘訣など、老いや幸せな高齢社会を考えるヒントを掲載

▶時を重ねる家。
 エクスナレッジ



朽ち果てそうな家を改修したり、祖父の家に手間暇をかけたり…。古さを美しさに変え、懐かしくも心地いい、かけがえのない空間にするための住まいの極意14の事例を、写真と共に紹介する